

28P-pm387

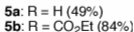
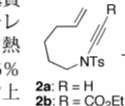
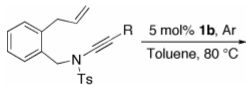
エンイナミドを基質とした閉環メタセシスによる中員環の構築

○若松 秀章¹, 坂上 舞依子¹, 花田 美幸¹, 竹下 光弘¹ (¹東北薬大)

【目的】最近我々は、三重結合の炭素と窒素とが直接結合したイナミドに注目し、エンイナミドを基質とするルテニウム錯体 **1** を用いた閉環メタセシスを報告した。¹⁾ 今回、本反応の更なる展開として、中員環合成への応用について検討を行った。

【方法・結果】化合物 **2a** を基質とし 10 mol% の **1b** と共に、エチレン気流下ジクロロメタン中加熱還流したところ、7員環 **3a** を 36% の収率で得た。基質のアルキン上にエトキシカルボニル基を持つ

化合物 **2b** を用いた場合、閉環体 **3b** の収率が 74% に向上した。次に、ベンゾアゼ



ピエン誘導体 **5** の合成を検討した。トルエン中 5 mol% の **1b** 存在下、**4a** を 80 °C で反応させたところ、閉環体 **5a** が 49% の収率で得られた。この場合においてもエトキシカルボニル基の導入は閉環に対して有効であり、**4b** を基質として用いるとベンゾアゼピン誘導体 **5b** が良好な収率で得られた。本年会では、更なる複素環の構築、8員環形成の検討などについて報告したい。

1) Mori, M.; Wakamatsu, H.; Saito, N.; Sato, Y.; Narita, R.; Sato, Y.; Fujita, R. *Tetrahedron* **2006**, *62*, 3872.



1a: L = PCy₃
1b: L = IHMe_s

3a: R = H (36%)
3b: R = CO₂Et (74%)